

朝顔

小松崎 有美 埼玉県所沢市 二十二歳

中学一年のとき、震災で福島から横浜に転校した。

しかし、待ち受けていたのは壮絶ないじめだった。学校に行けば「福島へ帰れ」と言われ、ついたあだ名は放射能。毎日が辛く、辛さの先に死がよぎった。一年生の妹もそうだった。自ずと心は学校から離れ、離れた末に二人して不登校になった。

学校に行かない間二人で朝顔を育てた。朝顔は朝の光を受けて咲くと思っていたがそうではなかった。朝顔の花は暗さを感じてから約一〇時間後に蕾を開く。朝顔が咲くには夜の闇に包まれる時間が必要だった。今、私たちが暗い状態にいるならそれは花を咲かせるための準備期間なのかもしれない。朝顔を育てながらそう思った。

あれから九年。今、私は幸せだ。暗さを味わった分「いま」という光が眩しくて仕方がない。